

コミュニティ だより

徳島市
徳島市コミュニティ
連絡協議会
〒770-8571
徳島市幸町2丁目5番地
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511

「八万花の会」の活動

八万中央コミュニティ推進協議会
会長 露口玲子

八万中央コミュニティ推進協議会の自主活動の一つに「八万花の会」があります。八万中央コミセンではプランターに季節の花を植えて、四季折々に来館者の目を楽しませていました。その活動を



八万花の会の活動

広げて公共の場を美しくしようと、地域の人々から意見が出て「八万花の会」ができました。地域の花の好きな人々が会員となり、花を植えるのはもちろんのこと、親睦のために桜や紅葉を見に行ったり、地域の人々を招いて「観月会」の行事を実施してきました。最近では「文化の森総合公園」の花の栽培や除草など依頼されるボランティア活動をするようになりました。



八万花の会 展示

まず、花を植える季節が来ると、会員一人ずつが二つのプランターに、秋はパンジーやビオラや葉

ボタンを植え、春には夏の花のペチュニアやマリーゴールド・サルビアなどを植えます。植え方は生田先生を講師として招き、正しい植え方を学びます。先生がおいでになつていく機会にと、個人的にも役立つように美しくて楽しい寄せ植えの方法や肥料のやり方の指導も受けて、家庭にも潤いのある生活を目指しています。花を植えたプランターは、車を持つている地域の人にお願ひして、会員各自の家に近くて常日頃世話のしやすい公共の場所に運んでもらいます。会員は毎日の灌水や世話に手間はかかりますが、「八万花の会」と書いたプランターは地域の人々の目につきやすく、世話をしているお礼を言ってもらったり、花を栽培し環境を美化す

第22回

徳島市コミュニティまつり開催

【とき】10月28日(日) 10:00～15:50頃
 【ところ】加茂名コミュニティセンター(庄町5丁目48-5)他
 *臨時駐車場あり
 【内容】開会式 10:00～10:30
 カローリング 10:00～15:00
 演芸大会 10:30～15:00
 起震車体験 10:00～12:00
 即売会 10:30～売切次第終了
 染色体験 12:30～15:00
 閉会式 15:00～15:15
 お楽しみ抽選会 閉会式終了後～
 *カローリングと起震車体験の会場は加茂名小学校です。
 【問い合わせ先】徳島市コミュニティ連絡協議会事務局(市民協働課内) Tel 621-5510
 加茂名まちづくり協議会 Tel 631-3481

ることに喜びも感じています。九月の「中秋の名月」には、月が東の空に昇る頃、地域の人々を招いて音楽会を開きます。昨年は北典子さんのオカリナ演奏と小河京子さんのピアノの演奏とソプラノ歌手の佐藤章子さんの独唱を聴き、後で月にちなんだ「里の秋」「月の砂漠」などを全員で合唱しました。一昨年はお琴の演奏と「ちいさい秋みつけた」「見上げてごらん夜の星を」「もみじ」の合唱でした。参加者は美しい月と音楽に満足していました。今年は昨年と違った趣向で実施します。最近では徳島市の公園緑地課が「八万花の会」の活動を認

めて、植物園で栽培している花の苗を無償でくださるようになりました。植物園のガーデニングコンクールにも応募して優秀賞をもらった会員もありました。搬入された作品の中には美しく変わった花や植物の寄せ植えや花器の工夫もあり、大勢の参加者の自慢の作品を鑑賞できる良いチャンスでした。花の会会員は花を植える技術を身につける上に、「文化の森総合公園」のボランティアや近所の公の場に自分が育てた花を飾るボランティアに生きがいを感じています。そして、地域がもっとも美しくなるように願っています。

シリーズ
名所・旧跡

丈六寺とその界隈を歩く

丈六コミュニティ協議会

宮崎房子

春は桜が咲き乱れ、夏は緑がもえる。勝浦川の清水が潤いをもたらし、秋には紅葉がもの見事な光景をかもし出す。

そんな丈六寺とその界隈を開ける丈六をあなたとともに散策してみたいのです。

さあ出発！そしてバス停「丈六北」で下車（乗用車利用者は別途駐車場あり）。

丈六寺への道すがらには、町内皆さんの思い入れのカラー舗装の美しい「せせらぎロード」がある。この道路に沿って勝浦川の豊かな水を取り入れた水路がとうとうと流れる。この水路には、身の丈なら五十七センチメートルから七十七センチメートルもあるう色彩豊かなコイが悠長に、そ

して堂々と群舞している。百匹を越えるコイの勇姿である。

道ゆく人は、備えられた餌（一袋十円）を投げ入れては、これに群がるコイのすごい生きざまに歓声をあげる。

町内の皆さんが育てた豊かな心のなせるコイの里の寸描である。

そこから二百メートルも行くくと阿波最古の名刹、曹洞宗丈六寺に到着する。

大本山は福井県の永平寺で、道元が伝えた宗派である。境内が六千六百坪を越えるという広大な丈六寺。この寺院の創建は、六七二（白鳳元）年というから今を去る一三四年の昔である。

室町時代以降は、細川成之、蜂須賀等の加護のもと今日に

見る雄大な寺院へと発展してきたという。

国指定重要文化財の山門は、室町末期の建立で随所に禅宗様式がうかがわれる。

観音堂の観音座像は、平安末期の定朝様の特色をよく表した全国的にもすぐれた巨像といわれる。

この観音様は立ち上がるとその身長が一丈六尺となるとのこと、この寺が丈六寺といわれることとなった。

本殿右隣りの徳雲院の血天井は有名である。

土佐の豪族長宗我部元親が四国制覇をめざした際、落城しなかつた富岡城の城主新開遠江守忠之と徳雲院において和談の酒宴が催された。このとき元親の策謀によって遠江守が殺害された。その際の出血が付着した椽板を後世に伝達するため徳雲院廊下天井に貼られて保存されている。必見！

丈六寺には来歴の故人の墓碑が林立している。空。風。火。水。

地と彫られた墓石（五輪塔）に蜂須賀一門、重臣の重量感を覚える。

寺院背後の秋葉山に登る。南東方に開ける小松島市のほ

地域コミュニティと防災

川内南コミュニティ協議会

会長 井上兵八郎

ほ全景を一望にふする。あわせて眼下に大きく蛇行して流れる雄大な勝浦川を見下ろす。絶景かな！絶景かな！癒しのひとときである。

史料によれば、藩政時代に、那賀川河口域、勝浦川河口域や吉野川河口域で広大な新田

が開かれ、川内でも「商業資本家」による「町人請負新田」として耕地不足を補う干拓事業が行われており、長年にわたる台風や洪水、地震や津波の影響によって吉野川をはじめ、多くの地区がその形を大きく変えながら今日に至ったことが記されています。

ウミガメの上陸、産卵なども見られるほか、年間を通して多くのサーファーが訪れる

超巨大地震・津波など、大規模災害の発生時には全ての社会基盤はその機能を失い、人々

を誘導したり、行動をコントロールすることは不可能です。

「近くて、高い場所」へたどりつくための複数の「避難経路」については、普段から調査と検討を進めるとともに、

地区住民間で共有しておくべき新しい情報、正しい情報の提供に努め、「避難表示板」

の設置を図るなど、地区の内

外を問わず、多くの人々に必要とする情報を提供できる態

勢を整える努力を続けることが重要だと考えています。

「想定は信じるな」「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」…

東日本大震災の教訓は、数え切れないほど多くのことを教えています。

近隣住民相互の信頼と連携による「連帯感」の醸成など、地道な努力と「減災」を見据えた取り組みを継続することは、津波最前線に位置する「川内南地区」コミュニティ活動の大きな目的の一つとして取り組んでまいります。

「町内会連合会」とは？

北井上町内会連合会

山口 弘

地域のある酒席の場で、グングラ話として「町内会連合会」について話している。聞いてみると「町内会連合会って何ですか？」と切り出した。いろいろな意見が出ましたが、ある人が「ボソッと「何をどうすると言われても困るけれど、無かったら困るとちがうんかいな」という意見を耳にし、



敬老会

なるほど「よし！これでいこう」と迷いが吹き飛んだ。やろうと思えばいくらでもある。しかし、現実には町内会連合会が無い地域が多々ある。「無かったら困る」「無い地域が多い」この相反する二極を見つめながら「まずは、やれることからやろう！」と頼りない船出となった。

まず最初に飛び込んできたのが東日本大震災における「義援金集め」の仕事である。これは国府町内のコミュニティ協議会の発案で義援金集めをすることになった。当地区では、阪神淡路大震災の時は婦人会が義援金集めをしてくれたが、その婦人会が休会となったため、コミュニティ協議会・公民館・町内会連合

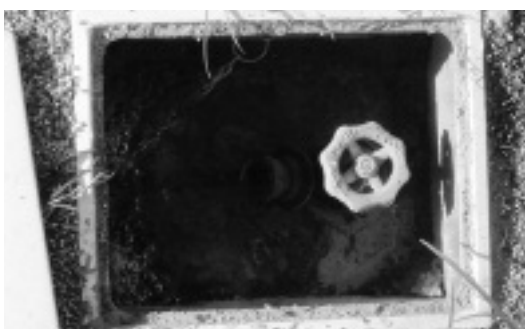


防災倉庫

会が協賛で実施した。

次の行事の「敬老会の開催」も婦人会の休会により、コミュニティ協議会・公民館・社会福祉協議会・民生委員・町内会連合会が協力しあって実行した。

三つ目は中学校グラウンドに体育協会・コミュニティ協議会・青少年健全育成協議会・町内会連合会からの支援で散水器を設置した。町内会連合会独自では、防災倉庫を新設し、徳島市から配備の防災器具を納め、わかり易く表示した。今後の予定は、従来各団



散水器

体が独自に行っていた防災訓練を「合同で実施したらどうか」とコミュニティ協議会会長から提案があり、その方向で進んでいる。
最後に、町内会連合会独自で計画通り実施するのも結構だが、地域内での話し合いで進めるのも一つの方法ではないだろうか。基本的には地域の実情に合った運営を最も大切にしなければならぬと思う。
(北井上地区コミュニティ協議会)

日赤活動を通して学ぶ

加茂婦人会
会長 吉成由美子

東日本大震災発生(三・一一)の折は、ただ嘖然とし、この世の事とは思えない、日本のみならず世界中の人が息をのんだ大災害であろう。三月十二日には、日本赤十字社徳島県支部は、医療班、救護班、支援物資を宮城県被災地へ送るということで、私たち日赤徳島市地区加茂分団ほか三十名は、庄町の支部へ、昼十二時の出発式に参加、大きく手を振り激励し、見送つ

た。参集した会員口々にその対応の迅速さと、準備には徹夜で待ったなしのこの行動に感激し、心よりエールを送った。

早速、義援金を贈ることとなり、会員はもとより、地域として、各町内会、コミセンが中心となり、義援金箱をコミセンに設置、徳島市役所、県日赤へも数回に分け届けた。

また日赤は五月十一日より四日間炊き出し支援隊を送ることとなり、市内外より十五名を宮城県気仙沼市小原木中学校に送った。



防災訓練

前日は加茂コミセンにて「阿波牛の牛井」と「そば米汁」「ならあえ」を婦人会員ほか三十名で、五百人分を仕込み、冷房車で現地へ配送した。

また、九月には第二陣が本年六月末より四日間、第三陣は石巻市蟹田地区、パイパス用地仮設住宅で炊き出し支援と阿波おどりで交流会などに参加した。いずれも加茂コミセン調理室、ロビー中庭をお借りし、災害用移動大型炊飯釜を設置し、汗だくで調理を行った。不自由な生活を強いられている方に少しでも美味

しく食べていただきたいと願い、心を込めて調理した。

また今年に入り、災害防災活動の一助になればと子どもたちに「防災ずきんを贈ろう」と地域の方や保護者に呼びかけて、タオル千二百枚が集まり、千松幼稚園へ百三十五枚、加茂保育所へ九十五枚、千松小学童保育クラブへ九十五枚、計三百二十五枚のずきんを婦人会員の手縫いで作った。

このずきんは東北被災地で大変役に立ったそうで、三枚のタオルで作り、糸を抜くと普通にタオルとしても使え、



千松小学童保育クラブへ防災ずきんを贈る

外側はかわいいキャラクター柄にし、小さい子にはゴムを使い着用しやすいよう工夫した。早速、ずきんを被り避難訓練を行った旨、報告してくださった。

このような活動をする中で防災意識の高揚にもつながると大変喜ばれた。

また平成十三年に「車椅子を贈ろう」運動として、アルミ缶・古紙回収等も行っており、その益金で以来十年間毎年、年末に日赤へ車椅子代として二十万円贈ってきた。その折にも災害用タオルを箱詰めにし持参している。

今後は地域の方々と相談し、来るべき東南海地震を想定し避難訓練、経路、マップへの取り組みなど考えたいと思っている。

(加茂コミュニティ協議会)



西富田コミュニティ協議会の現状



西富田コミュニティ協議会広報部会

西富田地域は、人口二千二百人、世帯数が千百世帯という小規模の地域ですが、地域住民は非常に協力的です。

私たち西富田コミュニティ協議会の組織と活動について簡単に紹介します。

組織として、町内会関係の

連合会を持たず、すべてコ

ミュニティ協議会に統括され

ています。コミュニティ協議

会は総会のほか、町内会長や

各種団体長、各専門部会代表

等で組織されている運営委員

会、会長・副会長・専門部会

長等による役員会があり、組

織的な活動を展開しています。

専門部会は、以下の七部会

があり、各部会ごとに具体的

な事業計画を策定し、役員会

や運営委員会承認の下に活動

しています。本年度の計画は

次のとおりです。

《総務部会》

○役員等による研修見学会の開催

本年度から、他の部会との

共同で開催します。

○新年互礼会の開催

○コミュニティ協議会の規約の見直し

《広報部会》

○「広報にしとみだ」の発刊
毎年七月・十二月・三月に
発刊しています。

《健康部会》

○健康ウォークの開催
毎年十一月二十三日（勤労
感謝の日）に、西富田コミセ
ンから文化の森まで歩きます。



“笑って健康” おお笑いしました

○新春西富田寄席の開催

「笑い」はNK細胞を活性化し、心の健康に非常に意義あるということ、本県出身の



落語家笑福亭学光師匠と弟子を迎え、本年度も開催します。

《文化厚生部会》

○「西富田まつりー演芸大会」の開催
公民館や社会福祉協議会と共催している西富田まつりの一環として開催します。

○地域親睦観月会の開催

地域住民の親睦のために、名月鑑賞会を開催します。

《環境部会》

○カンカラ缶作戦
美しい西富田を作ろうと、



文化の森で紙飛行機とばしや輪投げのゲームを楽しみました

盆前と年末に空き缶拾いや地域の清掃活動に取り組みます。

《福祉部会》

○いきいきサロン
年間五回地域住民が楽しく集い、料理や手芸、ゲーム等

で地域の連帯意識を高めます。夏みかんジャム作り・ブローチ作り・干支作りその他

《防災部会》

○防災教室の開催と避難訓練



津田の御台場

津田コミュニティ協議会

会長 島田和男

津田地区では、三年前より

徳島市の支援事業の認定を受け「地域の力」まちづくり支援事業を実施中である。

内容は、津田地区の歴史や史跡などの調査研究や資料収集を行い「歴史めぐり」の本

を発刊し、それをもとに「三世代交流歴史めぐり」を実施することになっている。その中の一つである「津田の御台



御台場修理時の火薬庫の一部

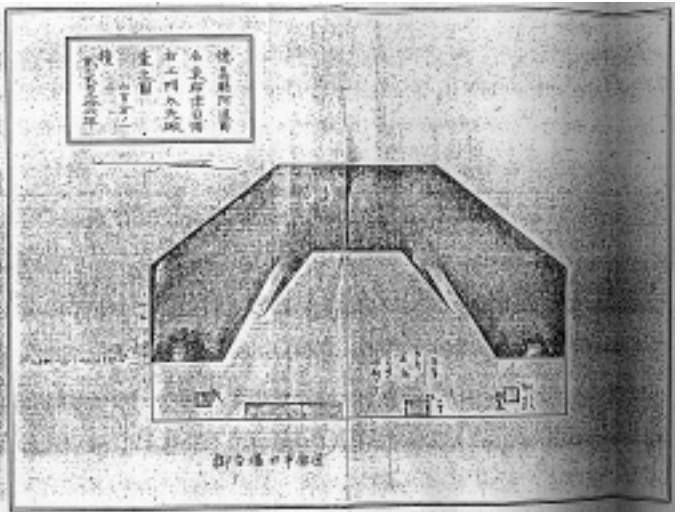
場」を紹介しよう。

アメリカのペリー提督の開国要求後、条約が締結されたのが一八五四（嘉永七・安政元）年であることから文政の頃、日本の沿岸線は異様な雰囲気であっただろう。

幕府の命を受けた徳島藩は、由良・岩屋の両砲台を築造した後、一八六一（文久元）年徳島城下の入口にあたる津田川口の砲台工事に着手した。

藩の海岸測量方であり砲術家の勝浦安右衛門と小出由岐太が任にあつている。また数学家として有名であった阿部有清もこの建築人の中に加わっていたことが、徳島市寺町の長善寺にある阿部氏の墓標中にみえている。

多くの人が苦心した御台場



御台場の平面図

が完成したのは一八六四（元治元）年であった。

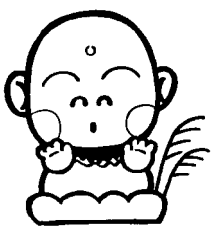
津田山から土石を運び、高さ約十メートル、幅百五十メートルの台座を築き、大砲三十門、火薬庫、兵士五十人の住居、練兵場などを置いた。御台場の真下には海波がその裾を洗っていたという記述がある。

砲台場は二反余り（約千九百八十四平方メートル）の敷地であったが、明治四年の廢

藩置県により閉鎖された。

その後、明治二十五年の山津波といわれる土石流で決壊した他村の治水工事にこの積み石が使われたため、ほとんどなくなり昭和二十年代に入り、市営住宅を作

るため造成され跡形もなくなった。しかし、一部のみ公園として残り火薬を在庫していた火薬庫だけが残った。この倉庫は石灰等に松ヤニを混合したもので「三和土」として非常に強靱なものであったと言われている。



編集後記

丈六寺紹介は時宜に恵まれています。NHK大河ドラマ「平清盛」を支え、丈六坐像を寄進した阿波水銀の長、田口成良がいるからです。成良は阿波水軍を率い、平家水軍の一翼を担い、対宋貿易を取り仕切ったといわれます。清盛没後の平家のために屋島に飯内裏を造り、安徳天皇や平家一門を迎えます。が、最後阿波水軍を率い、壇ノ浦の戦いで義経方に寝返り源氏の勝利に導きます。丈六坐像、阿波水軍、田口成良を再認識したいものです。

幕末期外国船の到来に対するため異国船打払令が出され「津田の御台場造り」が急がれました。その遂行に携わった歴史上の人物が説明され、貴重な紹介がされました。東日本大震災に遭われた気仙沼や石巻市民のため、汗だくで炊き出しに大活躍された加茂日赤の皆さまに感涙一入です。

八万の花づくりで町の美化、川内南の防災「避難マップ・避難表示」づくり、北井上の向三軒両隣を基本とした町内会づくり、組織的なコミセン活動の紹介、燦々と光り輝く地域の活動です。

(佐藤義忠 記)